

計画事業番号	00450	事務事業名	救急体制強化事業	担当部署	消防署救急指令課	電話	内線6201
--------	-------	-------	----------	------	----------	----	--------

【基本情報】

事務区分	■自治事務 □法定受託事務		根拠法令等	消防組織法第6条			
事務事業開始年度	平成16年度		個別計画等	・メディカル・コントロール体制「石狩・後志圏消防本部」運営に関する覚書(H16.4.1) ・メディカル・コントロール体制構築に関する覚書(H16.4.1)～札幌医科大学			
〃 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	単独	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	(第 3 章) 美しい環境につつまれた安全なまち (第 5 節) 消防・救急体制の充実 (施策 3) 救急救命体制の充実
2 対象	救急救命士及び救急隊員
3 目的と内容	メディカル・コントロール(以下MCと記載。)体制において、医師による救急活動の事後検証や病院実習、指示・指導・助言を通し救急救命士の資質向上を目的とし、救命率の向上を図る。また高度な気道管理を行える気管挿管認定救急救命士の養成を継続するとともに平成26年4月に薬剤認定救急救命士へブドウ糖の投与と心肺停止前の輸液確保が認められたことから、これに伴う追加講習を全ての薬剤認定救急救命士へ計画的に受講させることで救急業務の充実化を図る。 【前回推進計画からの変更点】 変更なし
4 実施内容(手段)	28年度まで ①救急救命士就業中研修(札幌医科大学付属病院) ②救急救命士就業前研修(札幌医科大学付属病院及び札幌徳洲会病院) ③気管挿管病院実習(北海道医療センター) ④気管挿管再認定講習(旧道立衛生学院) ⑤薬剤投与講習(北海道消防学校、札幌医科大学付属病院) ⑥ビデオ硬性喉頭鏡研修(旧道立衛生学院、北海道医療センター) ⑦処置拡大2行為講習(旧道立衛生学院) ⑧指導的救急救命士養成病院研修(札幌医科大学付属病院)
	29年度 ①救急救命士就業中研修(札幌医科大学付属病院) × 14名 ②救急救命士就業前研修(札幌医科大学付属病院及び札幌徳洲会病院) × 1名 ③気管挿管病院実習(北海道医療センター) × 1名 ④気管挿管再認定講習(旧道立衛生学院) × 2名 ⑤ビデオ硬性喉頭鏡講習(旧道立衛生学院) × 2名 ⑥ビデオ硬性喉頭鏡病院研修(北海道医療センター) × 1名 ⑦処置拡大2行為講習(旧道立衛生学院) × 2名

【事業の計画・実績】

平成28年度		平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画	実績	計画	計画	計画
就業中研修 気管挿管病院実習 気管挿管再認定講習 ビデオ喉頭鏡研修及び病院実習 2行為拡大講習(輸液・ブドウ糖及び血糖測定) MC連絡調整会負担金	①就業中研修×11名 ②就業前研修×2名 ③気管挿管再認定講習×1名 ④ビデオ硬性喉頭鏡講習×2名 ⑤ビデオ硬性喉頭鏡実習×1名 ⑥処置拡大2行為講習×4名 ⑦MC連絡調整会負担金	就業前・就業中研修 気管挿管病院実習 気管挿管再認定講習 ビデオ喉頭鏡研修及び病院実習 2行為拡大講習(輸液・ブドウ糖及び血糖測定) MC連絡調整会負担金	就業前・就業中研修 気管挿管病院実習 気管挿管再認定講習 ビデオ喉頭鏡研修及び病院実習 2行為拡大講習(輸液・ブドウ糖及び血糖測定) MC連絡調整会負担金	就業前・就業中研修 気管挿管病院実習 気管挿管再認定講習 ビデオ喉頭鏡研修及び病院実習 2行為拡大講習(輸液・ブドウ糖及び血糖測定) MC連絡調整会負担金

【評価結果・評価コメント】

総合判定		平成30年度に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度2次評価	現状継続	現状継続とする。	「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統合」 「休止・廃止」 「終了」
1次評価	現状継続	現状継続とする。専門的知識と高度な技術を有する各種認定救急救命士の充足と教育体制の充実を図る。	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

【事業費の推移】

(単位:千円)

			平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			1,535		1,815		2,007		2,007	
事業額	直接事業費	国支出金	0		0		0		0	
		道支出金	0		0		0		0	
		地方債	0		0		0		0	
		その他特財	83		225		248		87	
		一般財源	1,452		1,590		1,759		1,920	
	① 合計	1,535		1,815		2,007		2,007		
人件費 (左側:一般、 右側:再任用)	② 人数(年間)	0.21	0.00	0.21	0.00	0.21	0.00	0.21	0.00	
	③ 1人当り年間平均人件費	8,400	4,500	8,400	4,500	8,400	4,500	8,400	4,500	
	④ =②×③	1,764	0	1,764	0	1,764	0	1,764	0	
総事業費①+④			3,299		3,579		3,771		3,771	

【評価指標】

指標名		単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
活動指標	①救急出動件数	目標値	-			
		実績値	2,140			
	②高度救命処置件数(CPA)	目標値	-			
		実績値	42			
③傷病者の心拍又は呼吸再開率	目標値	-				
	実績値	9.50%				
④処置拡大行為実施件数	目標値	-				
	実績値	15				
成果指標	① 研修実習率	目標値	-			
		実績値	86.70%			
	② 1ヵ月後の社会復帰率	目標値	8.60%			
		実績値	2.38%			
③	【指標の定義(算式等)】	実績値				

【評価項目】

チェック項目	評点	コメント
妥当性 ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか？ ・上位の施策への貢献度は大きいですか？ ・特定の団体の利益に偏っていませんか？ 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	救急業務に対するニーズは年々高まり市民からの期待は大きく出動件数も年間2,000件を常に超える状態が続いている。また、救急救命士は新しい知識、技術、処置を取得するために研修や病院実習を受けなければならない、市民のニーズに応えるためにも妥当であるとする。
達成度 ・計画どおりに成果があがっていますか？ 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	救急救命士の処置が高度化し計画通り各種認定救急救命士も増加しており、高度救命処置件数も増加している。
成果向上 ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	3	各救急救命士がそれぞれの立場に応じた目標を持ち病院実習を行うことで、医師の指導の下さらなる知識、技術の向上を図ることができる。
経済性 ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	石狩・後志振興局管内の9消防本部が共同で実施することでコストを抑え財政的負担を軽減している。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	<input type="checkbox"/> 法律の義務付けあり	<input checked="" type="checkbox"/> 法律の義務付けなし
------------------------	------------------------------------	---

【民間活力の活用性評価】 (事業担当部局が評価)	<input type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働が可能である。 <input checked="" type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。
-----------------------------	--